

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》 『天の台所』

落合 由佳／著 (講談社)



～読んだ本の感想より～

- 天が台所を守ろうとしていて応援したくなった。
- がみババが天に料理を教えている時に天の行動に対して「ちがう」「もっと〇〇だ」などと言っているシーンが面白かった。
- 料理で兄弟なかよくなって、よかったと思った。
- 自分と年れいが近いのに、いろいろな料理をつくることができ、すごいと思った。
- 料理って、人との関わりをきずいてくれるだい一步なのかなと思いました。
- 主人公が「ガミババ」に教わり、いろいろな発見をしながら成長し、最後の方に、恋が実りそうな方向が良かった。

令和4年8月7日

『ここではない、どこか遠くへ』 本田 有明／作 (小峰書店)

- りょうこのたのしさや一人一人のきずながたいせつなんだと思った。
- 子どもだけでキャンプなんて楽しそう。
- ぼくもお金を集めてどこか遠くに行きたいと思った。
- 自分も一緒に旅をしているような気分になって、ページをめくるのが楽しくなった。
- 小学6年生の複雑な家族関係にとってもむねが苦しくなり、一人一人の涙のシーンにとっても感動しました。

『那木野、伝説の森で』 西村 さとみ／作 (国土社)

- ミチルとイツキが最初すぐるを守る所がかっこよく、心強い友達だと思いました。
- 最初、大蛇は悪者だと思いましたがそうではなく那木野の森を守る守り神のような存在だったことが分かりおどろきました。
- スグルが森や由津弥を救うため、ミチルやイツキと勇気をふりしぼって、オオザルたちと戦うところに感動しました。
- 那木野の森は不思議なところがたくさんあり、読んでいて楽しかった。

『ひまりのすてき時間割』 井嶋 敦子／作 (童心社)

- ひまりの前むきな部分がいいなと思いおてほんにしたいなと思いました。
- 発達しょうがいを持っていてもがんばって本を書いたのですすごいと思った。
- ひまりがしっかり生活するために、おまじないを考えたりして工夫しているところがすごいなと思いました。
- 前までは、しょうがいは悪いものだと思っていたけど、それぞれの人の個性なんだなと思いました。